



旅客総合販売システムの中核となる
MARS 105

鉄道業務の中で旅客営業サービス部門のシステム化、省力化が今、急速に進んでいる。各種乗車券の発売とその料金集計のオンライン化、案内放送、案内表示の自動化、座席予約のシステム化など、いずれもサービスの質的向上と高度の省力化をねらいとしている。

この中で最も早くから使用開始され、「みどりの窓口」として旅客に親しまれているのが、国鉄の座席予約システムMARS（マルス）である。昭和35年、試作システムMARS 1が完成、同39年初の全国システムMARS101が営業開始されてから、旅行者の激増、輸送量の増強とあいまって指定席の取扱量がふえ、大阪での日本万国博覧会の開催までには、MARS102、103、104と逐次増設されて、1日50万席の発売が可能となった。

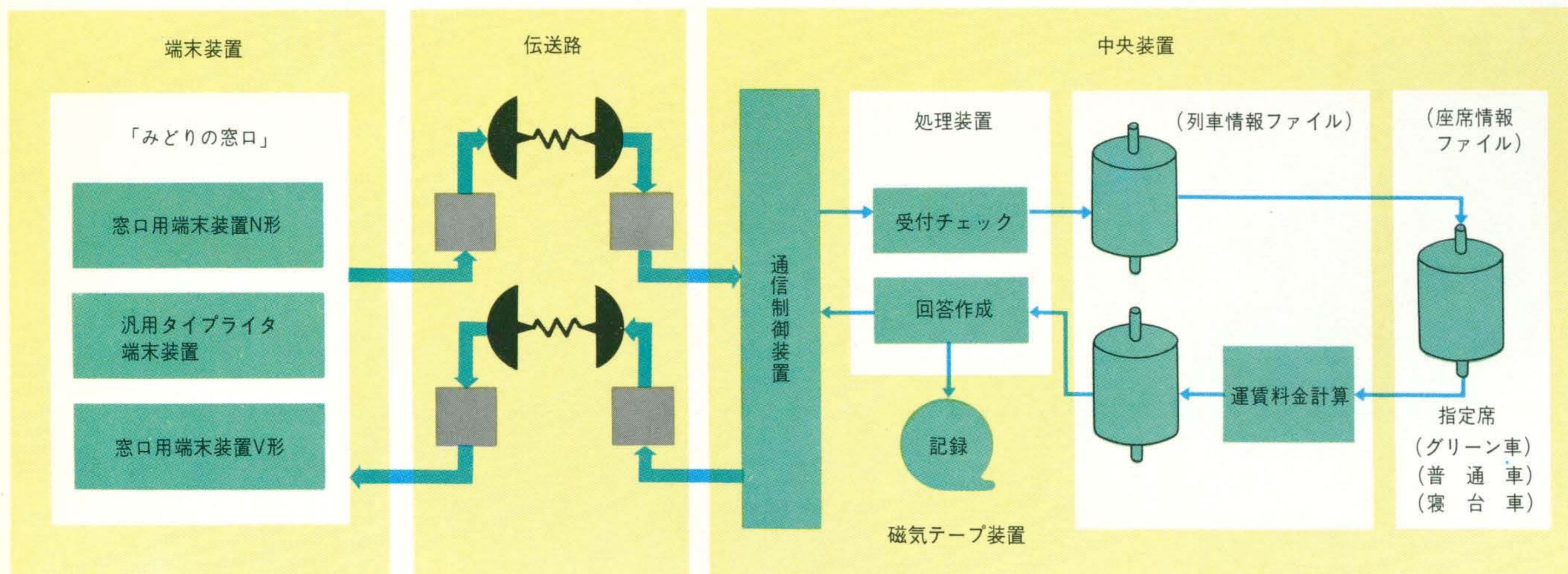
さらに、昭和47年9月に使用開始されたMARS105によってすべて指定席の発売が行なわれることになった。取扱い指定席数が1日70万席と増大したばかりでなく、機能面の拡充も行なわれた。

MARS105は、世界最大級のオンライン・リアルタイム・システムで、都下国分寺市の国鉄コンピューターセンターには、中央装置としてHITAC8700が設置され、全国には約1,400の端末装置が配置されている。一つの主記憶装置を二つの演算処理装置などMARS105は新技術の導入により(1)最大取扱期間2ヶ月(2)1操作で14人まで発売(3)2列車の乗継も1操作で発売(4)満席の時は代替列車の提示(5)乗客の好みにあった座席の割当てなど、利用者に便利のように機能が拡充されている。

国鉄は、さらに幅の広い旅客総合販

売システムの構想を持っている。それは大容量の座席ファイルを一括管理するMARS105を中心に、電話予約システムおよび団体、グループ旅行などに必要な商品を提供する団体予約システムなどから成り立ち、旅行の一貫予約とさらに輸送管理面との結合によるサービスの高度化を旨としている。

これらの構想の一環として、近い将来には電話予約システムが東京地区で使用開始される予定といわれるが、このシステムでは利用者は、駅の窓口まで行かなくても、身近のプッシュホンで簡単に、指定席が予約でき、ますます手軽に切符の入手が可能となろう(ちなみにMARSとは、Magnetic Electronic Automatic Reservation Systemの略称である)。



国鉄座席予約システムの概要